



5月25日の府議会開会日には森友学園の徹底説明を求め、集会がひらかれました

森友学園問題に続いて、安倍首相が理事長を「腹心の友」と呼ぶ学校法人「加計学園疑惑」が発覚し、「忖度（そんたく）」によって政治がゆがめられています。安倍首相はかかわりを否定し、「圧力が働いたことは一切ない」などと繰り返しています。しかし自ら疑惑を調査しようともしないで、「潔白」は通用しません。

最賃の引き上げや過労死防止など国民の願いに応えようとせず、国民の生活破壊、憲法改悪に向け暴走政治を続けています。

この夏、ゆがんだ政治をただすために、職場や地域で、全力でたたかっていきましょう。

ようこそ 労働組合へ!

**東大阪市職労
青年部 B B Q**



5月21日、東大阪市職労青年部は久宝寺緑地で毎年恒例のバーベキュー交流会を開き、新採職員を含めて21人が参加しました。当日は、五月晴れの絶好のアウトドア日和。今年は保育所や建設局の新採職員が参加し、職場の様子などを交流しました。新採職員は、先輩に仕事やプライベートの相談もするなど、和気あいあいとした雰囲気でした。

ゆがんだ政治をただす夏



小西 浩子さん
(吹田市関連労働組合副執行委員長)

名倉 麻里さん
(吹田市関連労働組合)

今年3月8日の国際婦人デー大阪集会に、一組の親子が参加していました。吹田市関連労働組合の小西浩子さんと名倉麻里さんです。二人に組合活動や仕事についてのお話を聞きました。

名倉さん(左)と小西さん。
初めて二人そろって労働組合に関わったのは、吹田市労連の団交の待機時間に炊き出しのおにぎりを食べたことでした

まず二人に労働組合とのかかわりを聞いてみました。小西さんは「元々吹田市職労の保育所支部で活動していましたが、介護などで退職を余儀なくされました。非正規職員で保育所職場に戻った後は吹田市関連労働組合に加入して、現在は副委員長をしています。名倉さんは「3年前に母から『保育所で働いてみない?』と声がかかり、母を見ていて保育所は楽しい職場と思っていたので働くことにしました」。でも、すぐに労働組合に加入しなかったとのこと。

そのわけは「月1回の会議もあり面倒くさそうだし、色々な改善は誰かがしてくれるもの」と思っていました。少し申し訳なさそうに語ります。そんな名倉さんが昨年の秋、組合に加入したのは「吹田市労連の70周年記念事業が魅力的だったのと、個人賠償責任共済の掛金が安くていいな」と思ったからでした。

労働組合に入り 世界が広がった

国際婦人デーに参加した名倉さんの感想は、「様々なことでがんばっている女性が自分のためだけでなく、みんなのためにがんばっていることを聞いて、自分もできるところからがんばらなければと思いました」。

労働組合に入ってからよかったことは?の質問には「パート職員として職場の先輩から教えてもらって交流がありますが、パート職員は他園との交流がありません。労働組合を通じて他園とも交流する中で、『他園ではこうしている』など話を聞くことができ、仕事の意味を改めて考えるきっかけになりました。そして小さな声で『母を尊敬しているから、母と同じ世界に入っていたことがとてもうれしかったです』と、はにかみながら話してくれました。

楽しい労働組合運動を!

小西さんは職場の仲間と「吹田市保育園9条の会」の立ち上げにも



労働学校では席を並べて学んでいます

かわるなど、様々な組合活動をしてきました。その中で感じていることは、「労働組合活動は楽しくなければ!と思ってやってきました」そして、「これから関西労働学校の吹田教室に親子で参加します。やっぱり『知らないことを知る』ことは楽しいじゃないですか」と笑顔で語ります。最後に二人は、「吹田市の保育園で働く非正規の仲間、労働組合に入れば楽しいことがたくさんあることを知ってもらい、吹田関連労働組合の仲間を増やしていきたい」と力強く話してくれました。